

# 要ヶ丘



発行

海士町立海士中学校

住所 海士町大字海士九四四番地

TEL 08514(2)0744

E-mail ama-jis@town.ama.shimane.jp

## 校内記録会

四月二十九日(金)、全隠岐陸上選手権大会の中止にともない、急きよ本校のグラウンドで校内の記録会を実施しました。

記録会では、互いに励まし合いながらみんなが自己ベストを目指して頑張りました。全隠岐陸上大会に向け、春休みから練習してきた成果をしっかりと発揮できたのではないかと感じました。また、選手以外の生徒も補助員として運営に協力し、とても良い記録会が実施できたのではないかと思います。

応援してくださった保護者の皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

(教員)



また、六月十九日(日)の午前中に県総体出場をかねて、島前地区の記録会を海士中学校のグラウンドに行います。郡総体が終わって一週間後で、生徒にとってはハードなスケジュールの中での記録会ですが、校内記録会で見せた激走をまた見せてくれることと思います。応援よろしくお願い致します。

## 男女テニス部出雲地区大会

五月十一日、十二日に、出雲地区ソフトテニス大会が安来運動公園テニスコートで行われました。昨年の十月に行われた新人戦で出場の権利を獲得した、男子団体、男子個人一ペア、女子個人一ペアが参加しました。結果は、男子団体戦が一回戦で敗退、男子ペアは一回戦敗退、女子ペアは一回戦敗退という悔しい結果となりました。

思うような結果ではありませんでしたが、この大会で子どもたちは多くの課題を見つけたと思います。その課題を克服し、郡総体ではさらに成長した姿でコートの上に立つてもらいたいです。悔いの残らないプレーをしてほしいと思います。(テニス部顧問)

### ○結果○

- (男子個人) 一回戦 2-4 対安来三中
- (女子個人) 一回戦 0-4 対東出雲中
- (男子団体) 海士中 一回戦 1対2 対松江一中
- 一番手 0-4
- 二番手 4-2
- 三番手 0-4

## ジュニアバレーボール大会

五月八日、隠岐の島町のレインボーアリーナにおいて、隠岐郡ジュニアバレーボール大会が開催されました。大会に参加した海士中学校男女バレーボール部キャプテンの感想を紹介致します。



○僕達男子バレー部は、西郷南中学校と二試合戦い、二試合ともフルセットまでいきましたが負けてしまいました。この試合で感じたことは、自分たちが課題としていたことが試合を通して克服できたということです。また、新しい課題を見付けることもできました。その課題とは集中力とすぐに落ち込むことです。まず課題である集中力を高めるため部活動はもちろん普段の授業を集中して取り組むことを意識します。すぐ落ち込むことは互いに声をかけてフォローし合ったりしながら練習したいです。チームとしてまとまり隠岐大会で優勝できるように頑張っていきたいと思います。

【生徒】

○今回のジュニアバレーボール大会では、私たちは三位という結果でした。今回は、声も出ていなくて一人一人のミスが目立っていたので、自分たちで失点することが多かったです。もう少しで郡総体があるので、サーブを確実に入れること、乱れたボールでも攻めること、声を出すことなどを意識してこれからの部活をやっていきたいです。

郡総体では初戦から気を抜かず、自分たちができる最高のプレーがしたいです。

【生徒】



## 郡総体について

六月十日(金)、十一日(土)の二日間、郡総体が開催されます。ソフトテニス、隠岐の島町の都万アイランドパークテニスコート。バレーボールは西ノ島町民体育館で行われます。県総体の出場権をかけた大切な大会でもあります。日頃の練習の成果をぜひ発揮してほしいと願っています。応援よろしく申し上げます。

### 自転車安全教室

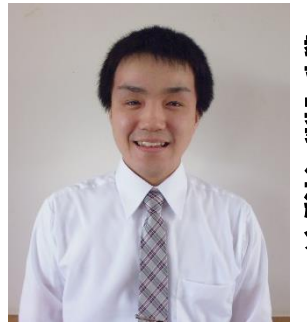
五月二十六日(木)に自転車安全教室を実施しました。海士駐在所、知々井駐在所、浦郷警察署交通課から四名の警察官の方に来ていただき、交通ルールについての講習と、自転車の走行の仕方について路上実技指導を受けました。



交通ルールについての講習では、自転車の運転についての基本的な講義から海士町内にはないような信号、横断歩道等の渡り方など、海士町以外でも運転する機会を想定した形で映像を交えながらわかりやすく説明していただきました。また、自転車の運転についても、右折に関する指導を中心として一年生は体育館で、二・三年生は路上でそれぞれ丁寧に指導いただきました。

今回の自転車安全教室で学んだことをもとに、今後も交通ルールを守り安全に自転車を運転してもらいたいと思います。

### 教育実習生紹介



教育実習生

五月二十三日(月)から教育実習をさせていただいています。

学級は二年生に、また部活動は男子バレーボール部に配属していただきました。

中学二年生の立春式において、「将来は教師という夢を叶え、この海士町に戻り、海士の子どもたちに数学の楽しさを伝えたい」と発表してから七年。わが母校にて今このように教育実習をさせていただけることに、大きな喜びと興奮を感じる毎日です。当時と比べれば、生徒数こそ減ったものの、海士中学校の生徒の皆様は皆、明るく活発で逞しい子どもたちです。私に対してもいつも大きな声をかけてくれます。また先生方は朗らかで、生徒一人一人丁寧に目を配っておられます。そのような姿から学ぶことがたくさんあります。

四週間という限られた時間ではありませんが、先生方からは多くの教えを請い、生徒のみなさんとの触れ合いの中からは貴重な体験を数多くさせていただきました。思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

### チャレンジデー

五月二十五日(水)のチャレンジデーに合わせて、本校でも生徒会が主催して、全校三十七名でドッチボールとしつぽ取りを行い、体力作りに励みました。



### 民生委員挨拶運動

民生児童委員の皆様と一緒に挨拶運動に取り組みました。「あの子は、どここの〇〇ちゃんだ。」という声を聞き、「子どもたちは、地域の皆様に見守られながら育っているんだなあ。」と痛感しました。



(校長)

### 人権コーナー

『人権』という言葉は、一見すると難しいイメージを持たれがちです。しかし、簡単に言えば誰でも人間らしく生きる権利を持っているということなのです。

では、学校では生徒に対してどのように人権について教えていけばよいのでしょうか。文部科学省では、『児童生徒が『自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること』ができる状態を人権教育の目標と定めています。しかし、人権教育は単に知識だけを教えればよいというものではないと考えています。むしろ、体験的な活動や実際に生徒自身が考える活動の場面をつくるのが、人権教育の目標に近づく手立てとして重要だと思えます。

先日、海士中学校でも職員研修の中で、『学級をはじめ学校生活全体の中で、自らの大切さや他の人の大切さが認められていることを、児童生徒自身が実感できるような状況を生み出すことが大切である』と確認しました。我々教職員が、学校で行われるすべての教育活動で人権を大切にすると、自己や他者を尊重しようとする感覚や意志が芽生える』ことを信じ、日々の授業から特別活動等の諸活動に取り組んでいきます。

(教員)

### 教員による随想 『方言』

我が家は海士弁一人、大阪弁一人、海士弁と大阪弁のハーフ一人、松江弁一人の家族構成で、海士にいながら三つの方言で会話が成立している。松江で生まれ育ち、松江以外の場所に住んだことのない、私が引越してきたばかりの頃、大変だったのは言葉。当初は、会話の中で方言が出る度に、母が意味を教えてくださいました。母が飛び出す、それはまだまだ勉強中)イントネーションの違いで笑いがこらえきれなかったこともしばしば。今まであんな高低差のある「ありがとうございます」は聞いたことがない。しかもそれが、海士弁としてなまっているのか、大阪弁としてなまっているのか分からない(笑)

私がよく旦那に使うのは「くだがん」と「くない」。後者にいたっては、混乱というダメージを与えている。これが出雲弁なのかどうかは分からないが、いらんとかの否定的な意味ではなく「くしたら?」として「とか要望に近い感じ。(私以外にも海士で使っている人がいるはず!)」最近になって「だがんだがん」「開けない」「閉めない」と真似して言っている(半分小馬鹿にして)くるが、違和感が半端じゃない。しかもちよつと半笑いで言ってくるので毎回イラッ!とくる(笑)

そして、また今日も気の済むまでいじり倒されるのであろう。もういい加減飽きない・・・。